

令和4年第8回加西市教育委員会会議録

- | | | | |
|---|------|--------------|---------|
| 1 | 開会日時 | 令和4年8月24日(水) | 14時00分 |
| 2 | 閉会日時 | 同日 | 15時01分 |
| 3 | 開催場所 | 市役所 4階入札室大 | |
| 4 | 出席者 | 教 育 長 | 民 輪 惠 |
| | | 委 員 | 沼 澤 郁 美 |
| | | 委 員 | 楠 田 初 美 |
| | | 委 員 | 深 田 英 世 |

- 5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	千 石 剛
教育総務課長兼給食係長	伊 藤 勝
学校教育課長	安 富 重 則
こども未来課長	丸 山 常 基
教育委員会課長(未来型児童館担当)	
	井 上 英 文
生涯学習課長兼市史文化財係長	北 島 悦 乃
総合教育センター所長	工 藤 憲 人
図書館長	伊 藤 陽 子
教育総務課長補佐兼総務係長	松 田 ちあき

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移る。

- 6 付議事項

なし

- 7 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

- 8 質問及び討議の内容

なし

9 議決事項

なし

10 報告事項

教育長

7月19日の前回定例教育委員会以後について報告する。

7月20日には、播磨東教育長会定期総会と地区教育長会議が行われた。そこで県教委より兵庫型学習システムの推進、地域での運動部の活動推進事業、働き方改革などの議案が提出され、説明と議論がされた。特に、部活動の地域移行に関しては、簡単に言われても、第一に、人材の確保には予算が必要だし、何よりも人材をどのように確保するのかということが現実に変な問題である。そこをもっと具体的に検討していかなければ、そう簡単に部活動を地域と一緒にやってというのはなかなか厳しいということを発言してきた。ほかの教育長さんも皆さん似たようなことをおっしゃっていた。もちろん加西市としてはその方向に向けて努力していくが。

7月22日には、楠田教育委員の辞令交付式が行われた。2期目に入れ、今後ともよろしくお願ひしたい。その後、第1回加西市女性団体連絡会会議が行われた。この連絡会議は毎年、親子の消防体験等を通じて防災意識の醸成に大変尽力いただいている。でも、参加している商工会議所婦人部、老人会婦人部などの各団体が、どういうことをしているのか理解していただくために、今年は防災ということテーマにできれば自分たちの団体のブースを設けるなどして、例えば鶴野で開催できないかという提案があり、より前向きに検討したいと決まった。大変前向きな会議でありよかった。

7月23日土曜日には、第65回東播磨地区保育研究大会が行われた。今回、加西市が担当だったので会場設営などを全部行い、私立こども園が中心となって市民会館大ホールで開催された。中身はもちろんのこと、歓迎の意をこめて加西市のこども狂言塾生が日頃の成果を見せて小舞や狂言でオープニングを飾ってくれ、大変よかった。

7月24日日曜日には、職員採用試験のうち、特に保育教諭の個別面接採用試験と採用委員会が開かれた。年々、加西市に応募される方々のレベルが高くなってきていると私は実感している。ただ、採用できる人数は決まっていて、この日も不合格にするのは本当に惜しいというような人材がたくさん来てくださっていた。

7月25日には、第7回加西市未来の学校構想検討委員会が行われ、いつもながら活発な意見交換ができた。もうすぐ行われる第8回目の委員会でも意見の交換はもちろんするが、この第7回の委員会において、9月の市長への答申に向けての方向性と中身の確認がほぼできたかと思っている。

7月27日には、市民会館文化ホールにて教育講演会が行われた。三木市出身で六甲

学院中学へ進まれたという現職業は芸人さんの山田ルイ 53 世さんがお話しされた。多分、三木市内の小学校でも勉強がよくできて六甲学院中学校へ進まれたといい、みんなに「このままやったら東大まっしぐらやな」と言われていたらしい。いわゆる「よくできる中学校男子」が、ある日突然に不登校になってしまった。さすが芸人さんなのでその成り行きをユーモアいっぱいに語ってくださった。ルイ 53 世さんの結論は、タイトルにもあるように「僕らみんながキラキラする義務なんかない」というものだった。それはどういう意味かといえば、どうしても従来の物の見方で人を画一的に見て、画一的な道徳観を押しつけてしまうこと、みんなと同じでないといけないという同調圧力など、ある意味そういったものへの鋭い批判だと思いながら私は聞かせていただいた。とても心に響く講演であり、多分現場の教師の皆さんの心にも響いたと思う。

7月28日には定例校長会が行われ、7月13日の臨時議会で可決いただいた教育委員会の施策を校長先生方に報告した。長引くコロナ禍とウクライナ情勢などをもろに受け、原油価格や電気料金の高騰などもいろいろ言われているが、そうした物価高騰への対策議会とも言える臨時議会である。教育委員会からは、子どもたちの学習環境に支障を来さないようにということで、教育振興費 3,013 万円の補正予算を提出し可決いただいた。これは2、3学期の学習教材費で、ドリルや学習プリント、理科実験のキッドなどの補助をするものである。学校の管理職にも議会等々や市の行政に対する視座を持っていただきたいといつも思っているのご報告させていただいた。

また、8月8日には、富合小学校で新任教員の研修会が行われた。私が若い先生方にお話したのは、いわゆる丸く物分かりよくなり過ぎないでほしいということだ。「丸く成熟する」ということは、1、2年目の二十三、四才ぐらいの先生方なので、今日という若い日の純粋な夢や理想や志というものを少しずつ諦めながら捨てていって、世の中を上手に渡れる教師になるという道でもある。だから、あまり急速に丸く物分かりのよい先生になり過ぎるのではなく、子どもたち1人1人の困り感や心の中にきちんと目を注いでいただきたいというようなお話をした。

同日午後には、第47回兵庫県小学校教育研究会、特別活動部会研究大会の播磨東大会が開催された。兵庫県下から大変多くの特別活動担当の先生方が加西市にお見えになり、加西市の特活の先生方を挙げて会場設営も含め、いらした方々のご案内をさせていただいた。本年の実行委員長は宇仁小学校の菅野校長だった。それで、宇仁小学校5年生のガイド隊が舞台上に登場し、自分たちの調べた1300年を誇る宇仁郷の歴史と見どころを堂々と発表してくれた。人数は十人前後と少ないが、舞台の上で堂々と発表していて私は感動した。恥ずかしながら私の知らないようなところまできちんと調べて誇りを持って話していた。また、歓迎のご挨拶にて、現在、加西市では次世代人材育成の柱に「加西STEAM」を据えて、先進教育に取り組んでいることを発表させていただいた。

8月9日には、中央公民館のかしの木学園で「江戸時代に学ぶ SDGs」というタイトルで講座が開かれた。皆さん大変熱心にお話を聞いてくださっていた。締めのご挨拶で、現在の教育委員会の学校統廃合に関する考え方や、STEAM教育についても情報発信させていただいた。

8月10日には、加西市政55周年記念の表彰の選考委員会に出席をした。

8月11日の山の日には、加西市の女性模擬議会が開かれた。昨年からふるさと創造課が企画して続けている加西市女性リーダー養成講座の塾生さんが、市議会の議場を借りて開いた模擬議会で、食育や災害時の市の対応、新病院建設の課題などについてをテーマにした大変論理的で心のこもった一般質問をされていた。市の行政側も誠意を持って担当部長が答弁をし、その前々から聞き取りもあり、大変きちんとした模擬議会であった。その日はもちろん加西市議会議員さんが何人かお見えになっていたが、私の知る限りでは、三木市、小野市、西脇市、多可町などからも多くの市町議会議員さんが傍聴席にお見えになっていた。帰り際には、「加西市は大したものやな。すばらしかった」と感動して帰られたということの後で聞いた。また、「うちの市長ならあんなことやいろんなこと言わせへんな」などと本音を大きな声で話しながらホールの入り口からお帰りになったそうで、私は「おっ」と思い、少々得意に思った。

8月17日には、「公民館とオークタウン加西の第1回あり方検討委員会」が開催された。私が教育長になり2年がかりでようやく公民館のあり方検討委員会を立ち上げることができた。これは手抜きをしていたわけではなく、いろいろとやらなければならない委員会等々がたくさんあったからであり、ようやく立ち上げることができたのは大変うれしかった。なぜかといえば、人生100年時代という惹句が世間で飛び交っており、我々も気軽に口にしてはいるが、まだそれに対する具体策というものはなかなか提示されないのが現実である。まず、現状の公民館運営を改革すると同時に、これからのSociety5.0に対応すべく新しい発想、新しいシステムで公民館を蘇生させたいと思っている。今のやり方が全部駄目だと言っているわけではないが、私が着任する数年前に加西市として公民館活動をきちんとやっていくことを決められている。でも、コロナ等々があり、なかなか思うに任せず停滞してしまったところもあったと思う。そこで、やはりもっと新しい発想でこれから公民館を地域文化の拠点、コミュニティの核にするにはどうすべきかということを考え、実践すべきだ。

そうしたことについて第1回の委員会では委員さんから随分活発に問題点の指摘と提案がされていた。それぞれの代表区長さんもお出ましになられており、業界用語で言う「充て職」で来られたのではなく、それ以外の委員さんも、本当に思っていること、いろいろな疑問や不満、提案を随分と出してくださっていた。私は「住民の皆さんが本当にそういうことを望んでいらっしゃるのだから、それを形にしていかなければいけないな」と思い希望を抱いた。ちなみに委員長は神戸大学大学院人間発達環境学研究科の松岡広路先生で、先生は大変オープンな雰囲気で見聞交換させてくださっ

た。これから先生のお人柄にも助けられながら、どんどんいい議論をして方向性を指し示せればと思っている。

8月18日午前と19日午後の2回にわたり、生涯学習課主催のSTEAM講座「読書感想文の書き方講座」が市民会館の視聴覚室で開かれた。講師は藤村麻紀さんというジャズシンガーだった。正直に言えば、「何故、読書感想文の書き方講座がSTEAM講座なんですか」と私も生涯学習課長に聞いたぐらいなので、皆さんもそういうふうに思われた向きがあるかと思う。ところが、藤村さんは全国でそうした教室を開いているそうで、私もどうすれば読書感想文の書き方がSTEAM教育と結びつくのかということに興味を覚えた。

藤村先生はさすがジャズシンガーだけあり、まず、(例えば食べる納豆など)食べ物を1人1人の五感で捉えて言葉に表現するということから授業を始められた。納豆の見た目、視覚ということからすると、それぞれ全員の意見が違う。「石ころみたい」という子もいれば、「見ただけで何かねばねばしているように見える」という子もいて、多様な意見が出た。そういうものを視覚、聴覚、触覚などの五感で捉えてみようという試みだった。

その授業のお約束事として「自分の思ったことはどんなことでも言うのが唯一のお約束です」と言われて、その授業中、子どもたちがそれぞれの意見を出すと、一つ一つに「ああ、それいいね。いいね」と、どんな発言も肯定された。そうすると、1から6年生の異年齢の子どもたちが徐々に、どんどん心を開いていくのがよく分かった。みんな何でも言っているのだ。正解や答えは皆さんの心の中にあると言われて、なかなかよいことをおっしゃるなと思い、それこそが本当にSTEAMでやりたい実際例だと思った。

また、あちこちの小学校の1から6年生が来ており、姫路の小学校からも何人か参加されていたので、その関心度の高さを実感した。そして、授業が終わっているのに、今日知り合ったばかりの子どもたちが、心を開いてホワイトボードで何か絵を描いて話し合ったりしており、本当に自由で楽しいSTEAM講座であったと思う。今後、生涯学習課においてもいろいろな形でSTEAM講座を行っていくということで、ぜひ市民の皆さんが応募して参加されるよう応援していただきたい。

それから、前述の講座と同日の18日午後と19日午前に、全県夏期教育委員会研修会がオンラインで行われた。

18日午後は、世田谷区立桜丘中学校の元校長先生である西郷孝彦さんが、大人にとっても子どもにとっても人生で一番大事なのは、幸せになることであるという大変大きなテーマを掲げながら、ご自分の実践に基づく学校改革の視点を語られた。この先生は「校則なし、制服なし、宿題なし」を実現された方で、全ての子どもたちに人生の中の3年間という短い期間を幸せに過ごしてもらいたいし、そのためにはどういうことをすればいいのかということについて具体的に語られ、共感することの多いよい

研修内容だったと思った。

西郷先生のお話にあった「校則も制服も宿題もない」と言われたら、私たちも保護者も「もうめちゃくちゃやんか」と普通に思うだろう。私はそういうことに対して相当に自由度は高いほうだと思っているが、それでも「ええ？」と思うぐらい大胆なことである。ただ、西郷先生は実際に日本でそれをおやりになっている。その現実があるのだから、最初から否定するのではなく、まず、我々は言い訳しなくてきちんと聞いて受け入れるべき事実だと思った。その上で、できることは何か、困難なことは何かということを見極め、もし挑戦するならばどこから始めるのかということを見定めることこそが大事なのだ、とってお話を伺った。

また、19日はコミュニティスクールについて、CSマイスターで「まちと学校のみらい」代表理事の竹原和泉さんという女性の方が講師でお話をされた。まず、彼女は「世の中は本当に大きく変化しているんだ。20年後、2040年の暮らしはどうなっていると思いますか」と尋ねられ、「私がいつも言っていることと同じような話だな」と思って聞いていた。竹原さんは「それをつくっていくのが現在の子どもたちなんですよ」と言われ、日本の学びは世界的に見て少し後れているという問題提起をされた。地域と学校が連携して一体何ができるのか。教育界や学校が思っている以上にリアルな知識や技能は地域の中にたくさんある。学校だけが問題を抱え過ぎたり、解答を先回りして用意し過ぎたりせずに、子どもの本気度をどのように高め、どのように子どもの心に火をつけるのかということは、学校と地域が一緒になって考えて実行すること。それがコミュニティスクールのあり方なのだとされた。本当に共感できる説得力のあるいいお話だった。

教育センター所長も、管理職や中堅の学校の先生方に向けて竹原さんの研修会をやりたいと言っていたので、多分もう一度お話を聞く機会があると思う。もし時間が許すようであれば、皆さんもぜひ参加いただいてコミュニティスクールに対する認識を深めていただければと思う。最後に竹原さんは「教育長のリーダーシップの下に教育委員会が主体的、計画的に各学校でコミュニティスクールの導入を加速させていきたい」という少し怖いことを言われた。私は「これはえらいことだ。頑張らなくては」と思った。この研修会には深田教育委員もご参加いただき感謝している。

次に、8月21日の日曜日には、人権文化をすすめる市民のつどいが行われた。市内の学校からたくさん応募していただいた人権ポスターの表彰式があり、私も教育委員会からの表彰状を授与させていただいた。その後、元アナウンサーで記者の藪本雅子さんが、『ハンセン病に学ぶ人権』というテーマで取材現場の体験を混えたお話をされた。

教育総務課長兼給食係長

令和4年度（3年度分）点検評価報告書について報告する。7月12日に評価員会を

開催し、堀内、押田両委員に点検評価についてご協議いただいた。両委員より頂いたコメントを最終ページに記載している。内容については割愛するが、両委員とも「概ね妥当」と評価いただいた。今年度の点検評価については、議会報告あるいは市のホームページ等にて公表するよう進めていく。

なお、来年度点検評価については、本日定例委員会後に打合せをさせていただきたいと思っている。ご協力をよろしくお願いいたします。

教育委員からの意見と教育総務課長の回答

- ・ご報告に感謝する。評価委員の総合コメントの中にも、点検評価は「教育委員が主体的に関わるような体制を整備されることを祈念しております」と書かれており、去年度からそのようにご指摘いただいている。それをしっかりと心に受け止めて、今年度、来年度に向けて前に進んでいきたいと思うので、よろしくお願いいたします。(回答) どうぞこちらこそよろしくお願いいたします。

学校教育課長

小中特別支援学校における学校教育活動について報告する。

新型コロナウイルス感染症の拡大が第7波を迎え、夏休み中も児童生徒並びに教職員における多数の感染者の報告があり、間もなく始まる2学期について大変憂慮しているところである。特に2学期は大きな行事がたくさんあり、かねてから申し立てるようにその学年でしか学べないことや体験できないことはできる限り実施していくという方針で、そうした行事に対しては児童生徒、保護者、地域の方の声をキャッチしながら子どもたちにとってよりよい方向性を示せるように、校長の経営方針の下、各校での独自の判断の部分も大事にしたいと考えている。

まず、小中学校の運動会や体育大会については、配付の日程のとおりで開催することで本日、最終的に確認が取れている。今のところ感染対策を講じながら、開催方法は学校規模により若干の違いがあると報告を受けているが、午前の開催ということでは概ね一致している。教育委員の皆様におかれては、可能な限り各校児童生徒への激励をお願いできればと存じる。全校からのご案内は、例年どおり当一覧表をもって代えさせていただくことでご了承いただきたい。地元の学校からのご案内があるかもしれないが、個別対応ということをお願いしている。

次に、修学旅行について。加西特別支援学校中高等部は、9月7日から9日に3年ぶりで東京方面へ行く。これは先日の保護者説明会の中で了承を得て、進めているところである。小学校は全校とも、10月25日火曜日、26日水曜日に京都、奈良方面へ行くということで現在進めている。

次に、市の指定研究会について。別添行事予定にもあるように、11月2日西在田小

学校、11月11日善防中学校、11月22日賀茂小学校にて開催予定。こちらも教育委員の皆様には可能な限りご参加いただき、お気づきの点等を教えていただけたらと思う。開催の詳細は各校から後日ご連絡させていただく。なお、市の指定研究会については、昨年度もお伝えしたように、校長会や教職員からの意見を受け今年度で一旦休止をする予定。理由は以下の2点。1点目は、教職員の資質向上について、各校での校内研修のさらなる充実、また、総合教育センターの研修講座、自主研修グループの活用など自主的、自立的な研修こそ推進していこうということが狙いである。2点目は、事あるごとに教育委員の皆様からも憂慮いただいている教職員の業務改善や働き方改革の観点から精査した業務の一つであるということだ。

最後に、ワクチン接種について報告する。第4回目ワクチン接種について、市ワクチン接種対策室から加西特別支援学校教職員を接種対象にするという配慮をいただいている。これは国の接種対象者区分に障害者施設に勤務する者が含まれており、このたび、加西特別支援学校が対象事業所であるという市からの方針を出していただき、実際に進めてきた。8月中に接種した希望者は10名弱だが、引き続き希望要件が合致すれば接種を進めていく。

教育委員からの意見や質問と学校教育課長の回答

- ・ コロナ禍で3年たった今でも学校では大変なご苦勞で、今まで以上に感染されたお子さんが多くなっている中、先生方のご苦勞やお気遣いは本当に私たちには考えられないぐらいのものであると思う。本当にありがたく思っている。3年前は先生方も初めてのことでお気遣いがあったと思うが、そのとき以上に今は加西でも感染者が爆発的に増えていっている。今までにない特別な取組や具体的なことは全般的に何かされていらっしゃるのか。

(回答) まず、感染対策ということでは学校でも予算が限られているので、補正予算や国の補助を受けながら継続的に保健衛生物品、また、備品関係では、新たに学校に必要な物を募り、例えばサーキュレーターなど各学校のニーズに合わせて購入できるような予算を配当したところである。今現在はその選定を進めてもらい、子どもたちの教育活動が始まる9月に学校ごとに何らかの形で対応をしてもらうようお願いしているところである。それで、こちらでは少し把握し切れていないが、予算的などところでそういう担保をしている。

それから、教育活動そのものについては、令和2年度に行ったような分散などの対応は国の方針もあり、そこまではせずに持続可能な中で教育活動の充実を図りなさいということなので、今はむしろ平成31年度・令和元年度の状況に近い教育活動をしているところである。ただ、この2年間の学びの中で、子どもたち自身が自分たちから感染対策をしていこうという意識が大変出てきた。これは大きな成果なの

で、各学校では子どもたちがそういった日々、自立的に自分の体を守るという教育を改めてしていこうというふうになっている。

それで、7月と9月ではどういうところが違うかといえば、実はそれほど目に見える形で新たな感染対策を多く取っているわけではない。ただ、この夏休み中に感染が広がっているので、9月に入ってから学級閉鎖基準等についてさらに見直さなければいけないと考えている。少し答えになっていない部分もあるかもしれないが、よろしくお願ひしたい。

- ・何かと大変だと思うが、子どもたちは今までに経験したことのない状況から一つずつ学習して、その点では一つずつ賢くなったのかなと思う。でも、先生方はご苦労や大変さがある。先の見えないことなので、今後もどうかよろしくお願ひしたい。
- ・先ほどの学級閉鎖基準については、国のほうから学級内に複数の感染者が出ても感染源が違うときは関係なしというか、学級内で感染が広がっていったものについてだけという基準が、つい最近出てきたという。北海道や東北なんかではもう今週から学校が始まっているということで、「もう少し国も早く進めてほしいな」と思うものだ。

本当に夏休み中は子どもたちが罹ってはいらぬものの、感染は大分減っていた。でも、今度は2学期となるとどうなっていくのかと、どこも戦々恐々として見守っているような状況だ。本当に油断できない中で先生方も大変だと思うが、保護者の皆さんと十分に連絡を取っていただいて、学校教育課長も言われたように2学期はいろいろな行事があり、特に運動会など子どもたちが達成感を味わえる行事があるので、何とかやらせてあげたいと我々も応援している。よろしくお願ひしたい。

教育委員会課長（未来型児童館担当）

加西市未来型児童館整備基本構想策定業務の進捗状況について報告する。

加西市未来型児童館は、子育て環境の充実に向けて子どもたちや子育て世代のニーズに合わせ、必要な支援を選択し利用できる子ども子育ての総合的な拠点施設として整備を考えている。前定例会では、基本構想策定業務の優先交渉事業者が決定している旨お伝えしたが、決裁の関係で事業者名は報告していなかった。基本構想策定業務の優先交渉事業者は、パシフィックコンサルタンツに決定した。今後、当事業者と契約を結ぶ運びになっている。基本構想策定に当たっては、庁内関係課職員による検討委員会だけで進めるのではなく、子育て世帯の市民を対象としたワークショップ形式の会議を開催するとともに子ども・子育て会議にも諮り、加西市における子育て環境として必要な施設内容及び建設予定地を取りまとめる予定である。

教育委員からの意見や質問と教育委員会課長（未来型児童館担当）の回答

- ・パシフィックコンサルタンツに決定されたと言われたが、こういうことでこの業者に決まりましたというあらましみたいなものを少し教えてもらってもよろしいか。
(回答) パシフィックコンサルタンツに決定したとお話したが、今回、業務委託業者を決定するに当たり公募型プロポーザルにより参加事業者を募集した。そして、企画提案書を出してプレゼンテーションを行ってもらい、その評価基準に基づいて選考委員会の方に点数をつけていただいたところ、点数が一番高かったのがパシフィックコンサルタンツであった。それで、優先交渉事業者に決定している。
- ・参考までに何社ぐらいの委託業者が手を挙げられたのか。
(回答) 今回、参加希望を出した業者は2社である。
- ・先ほどワークショップ形式で子育て世帯のいろいろな要望などを取り入れてやっていきたいと言われていたが、やはりそこが大事だと思う。最近、加西市は「子育てにやさしいまち」としていろいろなことに取り組みまれて、評判も徐々に上がってきている。その中でこの未来型児童館というのは大きな拠点施設になると思う。今回は事業者が決まったということで、ここからは一つには予算もあると思うが、魅力ある施設、使い勝手のよい施設ということが大事なので、きちんと話をして本当に市民のためになる施設を造ってほしい。また、我々としてもできることがあればやりたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

総合教育センター所長

まず、7月27日に開催した令和4年度教育講演会について報告する。

「僕たちにはキラキラする義務などない」をテーマに山田ルイ53世さんを講師とし、自身のひきこもり体験を基に講演していただき、不登校問題について考える機会となった。当日はコロナ感染やコロナ不安もあり教職員の欠席が少しあったが、教職員は210名、それから、今回は不登校のテーマということで保護者の出席も募集したところ、実際はもう少したくさんの応募があったのだが、保護者は31名、事務局22名が受講した。教育委員の皆様も平日のお忙しい中、受講していただき感謝している。1時間半の講演会で、質疑応答も充実した大変有意義なものになった。

講演会後のアンケートで寄せられた多くの感想は以下のとおり。当事者の話が聞けるのが何よりよかった。自分たちの教育を見直す視点になった。教職員としての自分たちの気持ちや気分も少し楽になれた。教育長や先生方の不登校に対する思いが伝わった。楽しくたくさん笑って元気に帰れた。明日からも頑張ろうと思えた。ただ一つ、質疑応答のとき保護者が手を挙げられていたのに、センターとして気づけなかったこ

とは、大変残念に思っている。

もう1点、8月定例校長会で連絡・周知した学校運営協議会の設置について報告する。

平成29年に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、「地域と共にある学校へ」学校運営協議会を設置することが努力義務化された。加西市教育委員会においては、令和2年度に「学校運営協議会設置に向けた検討委員会」を開いて協議を重ね、「加西市学校運営協議会規則」を策定した。そして、令和3年度を周知期間、令和4年度を準備期間とし、令和5年度より全ての加西市立学校に学校運営協議会を設置する。令和4年度の準備スケジュールは資料のとおり。学校評議員制度から学校運営協議会への移行を機会に、形骸化しつつある制度を機能的に活性化させるには、委員の選考が重要であると研修から学んだ。学校運営協議会によって1年目から激変するというより、回を重ねるたびに様々なアイデアや意見、地域に合った特色が出され、地域と共に学校づくりを進める機構が構築され、各コミュニティスクールが進んでいくものと考えている。

令和4年度第1回総合教育センター運営委員会について報告する。

7月13日水曜日に総合教育センターにおいて、運営委員、教育長、センター職員の計9名が出席の下、センター運営委員会が行われた。センター職員より事業概要、それから、教育推進・育成支援の取組現状と課題について、重点事業である「教師の指導力の向上」「小中連携教育の推進」「いじめ防止やネットトラブル等への対応を中心とする生徒指導」「不登校の未然対策と支援の推進」「児童生徒の特性や状況に合った発達支援」に関する内容を中心に説明を行った。その後、総合教育センターの事業運営等についての意見を頂き協議した。

そこで出された主な意見として、教職員の資質向上に向けた研修講座の重要性の再確認、スクールソーシャルワーカーや発達アドバイザーによる相談支援体制の充実と地域福祉課とのさらなる連携強化、「ふれあいホーム」等による不登校支援体制のより一層の充実と不登校生の居場所づくり、虐待対応について学校と福祉がそれぞれの立場や役割を理解して協力していくことなどについての話が出た。こうした内容から、改めて総合教育センターの担っている役割が重要であることを再認識する機会となった。

教育委員からの意見や質問と教育センター所長の回答

- ・学校運営協議会やコミュニティスクールについては、どちらかという国の方針として上から下りてきたというふうな気配がしなくもない。もともと本来はそうではなくて、地域の学校をいかにきちんとしていくかということころなのだが、今のお膳立てとしては上から下りてきたみたいな感じが管理職の中にもあるのではないだ

ろうか。そうした中でもっとコミュニティスクールのあり方を検討したいとか、その考え方をしっかり持ちたいと思っていたところ、前述の教育長の報告にもあったが、県の教育委員会の研修会の中でたまたま8月18日に竹原先生の講演を聞かせていただいた。目からうろここというほどではないが、私も考え方を大きく変えられ揺さぶられた気がした。

地域の学校と言いながら、地域となかなかコミュニケーションが取れていなくて、管理職も相談をかけたいが、お互いに忙しい中で今まであまりできていなかった。しかし、そうではなく、もっともっと地域と話をし、地域の学校としてどうすべきか、どんな子どもたちを育てていきたいのかということはきちんと話をしていかなければいけないということを学び、とてもよい講演だったと思う。

センター所長も一緒に、あのときできたらこの人を講師に呼びたいというふうな話も出ていたと思う。何か少しそういう方向で話が進みつつあると伺ったが、もし日にちなどが分かっていたら教えていただきたい。それと、当然人数の問題というのはあるが、学校のほうからはミドルリーダーも含めて、また、PTAになるか分からないが地域の関係の方も可能であれば入れていただいて、当然リモートになると思うが、一度竹原先生のお話が聞けたらいいなとも思っている。そのために準備されていることなど少し教えていただけたらと思う。

(回答) 研修については私も同感で、自分自身が大変勉強になったし、考え方も大きく変わったので、教職員や地域の皆さんにも聞いていただきたいと思っている。実は私も気が早くて、研修が終わったらすぐに案内文章まで作って出せるようにしていたのだが、日程調整が非常に難しい。9月は運動会を中心に行事があり、10月かということでは言っているのだが、修学旅行などで日程調整になかなか苦労している。今、安富学校教育課長とも相談して仮で日程を入れているのだが、修学旅行から帰ってきたすぐの日しか取れていない。これでは聞いてもらいたい中心人物になる方たちが出てきにくくなるので、再度、日程調整をかけようとしている。決まり次第、早めにお伝えしたいと思っている。

それに加え、竹原先生の日程調整をしないといけないことと、また、1回ではなく数回に分けてしようかと考えている。まず、取りあえず1回目は学校関係者だけでスタートして、次に、地域やPTAや保護者を入れる計画で考えている。

- ・ 段階を踏んで複数回に分けて考えていただいているということで、私もそのほうがいいと思う。お忙しいと思うが、ぜひよろしく願います。
- ・ 先日の教育講演会はとても楽しくて本当によかった。本音を言えば、少し難しいかなと思っていたのだが、レイ 53 世さんのお話は話術がたけていて、本当に分かりやすく楽しいもので、もう1時間聞きたいぐらいに思ったほどだ。あのときPTAの方

も何名か来られていたが、PTA に対して募集をされたのか。

(回答) 学校を通して全ての保護者に案内プリントを配布した。そこには QR コードをつけていて、いろいろな事情をお持ちの方もいるので、学校を通さずに直接 QR コードから申込みいただけるようにした。

・今までの講演会もそのようにしていたのか。

(回答) 本来、教育講演会は教職員の研修であり、対象は基本的に教職員ということになっている。ただ、今回は内容が不登校ということで、事前の情報から保護者も聞くといい話だということだったので、特別に保護者も募集することにした。

・今後も今回のように一般の方、興味のある方、PTAの方などを引き込んで一緒に勉強していくのはいいことではないか。そういう点も考えていただけたらいかかと思う。よろしくお願ひしたい。

(回答) テーマも合わせ、その兼ね合いも考えながら検討したい。

・総合教育センターがいろいろな研修をしていただいていることに本当に感謝している。特に今、楠田教育委員も言われたように、7月27日の教育講演会は、あれほど笑って楽しく聞かせていただいた講演会は今までになかったのではないかと思うぐらいだった。また、実体験の生の声なので、やはり心に打つものがあったのではないかと思ひ感動した。教育センターはこうした教職員の研修や不登校支援において本当に日々ご努力いただき、ありがたく思っている。

教育センター運営委員会の報告にもあるように、教職員の研修はもちろん不可欠なもので、先生方の資質向上やキャリアステージに応じた研修講座を行っていただいていることには本当に感謝している。ただ、先生方は日々業務がお忙しいので、その中で研修の時間を確保していくことは本当に大変だと思う。働き方改革もあるので、効果的、効率的に研修を行うよう順次取り組んでいることに感謝するとともに、今後とも先生のご負担にならないようによりよい研修をよろしくお願ひしたい。

・私も今回の講演会では、子どもが何げないようにしていても、その裏ではとにかくいろいろなことを悩んだりしているということについて、本当に児童生徒の視点で語られていたと思う。教育技術とかそういうことではなく、いかに先生が子どもの心情を把握することができるか。そういう意味でもとても大切なよい研修会だったと思う。子どもたちは夏休み中いろいろなことがあり、いろいろなことを抱えながらも、また2学期が始まると普通の顔をして学校に来ると思う。そこで先生方の声かけが大事だと思うのでよろしくお願ひしたい。講演会には感謝している。

1 1 協議事項

なし

1 2 教育委員の提案

なし

1 3 今後の予定について

- ・令和4年第9回定例教育委員会 9月22日(木) 14:00～5階大会議室
- ・令和4年第10回定例教育委員会 10月24日(月) 14:00～4階入札室大

1 4 その他

なし

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和4年8月24日

出席者

(出席者署名)